

4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）見学会の概要（R6）

■ 見学会の目的

林業の成長産業化を推進するためには、労働生産性の向上や労働災害の低減を図る必要があります。今回紹介する4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）は、タイヤが付いた4本の脚をそれぞれ独立して動かすことができるため、これまでの重機では入ることができなかった山林での作業が可能となり人力作業が減る事から労働災害の低減が図られます。今回の見学会は、この機種を岐阜県で唯一所有している株式会社カタギリテックの協力のもと開催しました。

■ 見学会の概要

開催日：令和6年6月13日（木）13:00～14:45

会場：恵那市笠木町地内山林

説明者：（株）カタギリテック片桐 氏他

● 4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）の概要

- スイスのメンツィムック社製
- ヘッドは、掘削バケット、ハーベスタ等に交換可能（今回は、グラップル装着）
- 最大登坂能力は45度

● 見学会の内容

- 4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）のデモ作業見学
（リニア関連工事に伴う支障木伐採現場）

見学会の成果

- 参加者に4輪多関節型作業機械（スパイダーM545）の性能を認識していただいた。

■ 今後の課題

- 導入するには高価
（本体、アタッチメント等で1億円以上（2025年6月時点））

■ 今後の対応

森林技術者の労働災害の低減や労働負荷低減の一つとして、新たな林業機械が開発された際は見学会を開催する。

■ 見学会のようす

